

2021 年度 日本財団助成事業
安全教育事業の概要と評価



1. 目標の達成状況

【重点5 地域の実績と計画】

ジュニア教室5箇所開催は、コロナ禍の影響により1箇所開催できなかったものの、残り4か所において合計195名の子どもたちにライフセービング体験を提供することができた。実施できなかった御宿では、引き続き2022年度に実施できるように地域クラブや自治体等と連携を進めていく。

ライフセービングサポーター講習は、2020年度から比較すると増加はしたが、依頼型講習という形態が軸であるため、外部講師の入校が困難である状況も多く、目標達成に至らなかった。

指導員養成講習は、基礎となるBLS指導員養成にとどまらず、ウォーターセーフティやジュニア指導員など多岐にわたる講習会を開催することができた。認定数は昨年と同様の97名であったが、会場によっては少数の受講者で実施しているところもあり、次年度は指導員の魅力を多面的に発信し、広報、人材発掘の視点からも、受講者確保の工夫が必要である。

ICT教材であるe-Lifesavingは、68,676ユーザー（前年比235%増）、1,835,506ページビュー（前年比770%増）となった。ユーザー数は目標値を20万と設定していたため未達ではあるが、2020年を大幅に上回る結果となった。重点地域での実施、調査検証には及ばなかったが、実施できる学校等を中心とし、当初以上の規模感で調査検証を行えた。また各省庁からも推奨教材としての認可を受け、さらには各種メディアにおいても数多く発信いただけたことは大きい。2022年度は、海上保安庁との連携を促進させ、新たなコンテンツ作りに取り組んで参りたい。

2. 重点5地域の2021年の実績と2022年の計画

表-1 重点5地域の2021年の実績と2022年の計画

海水浴場	ジュニア教室	サポーター講習	指導員養成	ICT教材を用いた指導 ^{※1}
千葉県 御宿中央	計画されたが未実施 2022年実施予定	☑御宿にて実施	計画されたが未実施 2022年実施予定	
神奈川県 鎌倉	☑鎌倉にて実施 2022年実施予定	☑鎌倉にて実施	☑県内実施 (川崎にて) 2022年実施予定	☑藤沢にて実施
静岡県	☑静岡にて実施 2022年実施予定	☑静岡県内（浜松）にて実施	☑県内実施 (熱海、相良にて) 2022年実施予定	☑海に入れない時期を中心に実施
福井県 若狭和田	☑若狭和田にて実施 2022年実施予定	☑若狭和田にて実施 2022年も継続実施		
宮崎県 青島	☑青島にて実施 2022年実施予定	☑未実施 2022年実施予定		

※1 オンラインを用いて全国的に展開。藤沢での実施実績については、学校への訪問授業、及びスイミングスクールの児童を対象に実施。

3. ジュニアライフセービング教室及び器材支援 (事業内容 1)

◇ ジュニアライフセービング教室実施概要

全国の海水浴場の中でも、重点地域で活動する下記 5 か所 (ライフセービングクラブ) に対し支援を行った。

【支援対象クラブ】

- 御宿ライフセービングクラブ (千葉県)
- 鎌倉ライフガード (神奈川県)
- 静波ライフセービングクラブ (静岡県)
- 若狭和田ライフセービングクラブ (福井県)
- 宮崎ライフセービングクラブ (宮崎県)

【実施内容】

■防災教育をベースとしたジュニアライフセービング教室の実施

- ① 海でのプログラムの体験前に、e-Lifesaving を実施 (5 か所中 3 か所程度) する。
- ② 海浜活動中の地震、津波、避難のフローを各防災マップより、シミュレーション訓練を実施する。ライフジャケットを着用しての避難の重要性や避難経路、避難場所までの道のりを体験から学ぶことで、防災意識を高める。さらには津波フラッグへの周知を図ることで、海浜活動への安全知識と実践的行動を理解する。
- ③ ビーチクリーンとビーチコーミングを通じて、海の環境保全に対する気づきと、より安全な浜辺への意識を高める。
- ④ 昨夏、ライフジャケット未着用の溺水事故が目立ったことを受け、ライフジャケットの重要性と正しい着用方法や、着用時の「安全姿勢」「グループサバイバル」「助けてサイン」等の周知を図る。

【支援資器材】

- ジュニアポップアップバナー 1 枚
- ニッパーボード 4 本
- ジュニアラッシュガード (S, M, L) 計 30 枚
- Jr. パトロールキャップ 30 枚
- ライフジャケット Jr (S, M) 計 15 着
- クリアファイル 100 枚
- Jr. ライフセービングテキストブック 2019 100 冊

● 実施報告

No	開催日	主催	会場	参加者数
1		御宿 LSC	コロナウイルスの影響で中止	0
2	9/25, 26	鎌倉 LG	材木座伊海岸	41
	10/20		材木座伊海岸	33
	10/24 (AM)		材木座伊海岸	55
	10/24 (PM)		オンライン	9
3	7/24	静波 LSC	静波海岸 静波 LSC クラブハウス	14
4	8/28	若狭和田 LSC	城山海水浴場	34
5	10/10	宮崎 LSC	青島海水浴場	9
				195

- 得られた成果
 - ライフジャケットの支援により、泳力に不安のある子どもでも海へいざない、プログラムを不安なく実施できた。2020年度にライフジャケット未着用による事故が目立ったこともあり、正しい着用方法等を体験してもらうことができた。
 - 避難訓練を実施することにより、『津波防災』を意識付けることができた。また、気象庁と連携して周知に取り組んでいる津波フラッグを導入するクラブもあった。
- 成功要因
 - 昨年に比べ、多くの子どもたちの参加が得られた（昨年9クラブ133名）。2020年度におけるコロナ禍での子どもの水難事故を受け、水辺の安全に対する体験活動の必要性が認識された結果と推察している。
 - 支援された器材が、現場の実施プログラムや安全管理を高めるために必要な資器材としてマッチしており、更にそれらを必要とするニーズの声が当協会に多く寄せられた。
- 失敗要因
 - 御宿については、新型コロナウイルスの影響を受け、町全体で事業の開催について難しい状況があった。

◇ 器材支援概要

● 目標

(1) ライフジャケットの配布	< 75着=15着×5ヶ所 >
(2) Jr. 用ラッシュガードの配布	< 150枚=30枚×5ヶ所 >
(3) Jr. 用パトロールキャップの配布	< 150枚=30枚×5ヶ所 >
(4) ニッパーボード	< 25本=5本×5ヶ所 >
(5) Jr教室掲出用ポップアップバナー	< 5部=1部×5ヶ所 >
(6) Jrテキスト	< 5000冊 >
(7) 水辺の安全啓発クリアファイル	< 20000枚 >
(8) ライフセービングサポーター修了証	< 20000枚 >

● 実施結果

- (1) ライフジャケット：5ヶ所×15着=75着
- (2) Jr用ラッシュガード：5ヶ所×30着=150枚
- (3) Jr. 用パトロールキャップ：5ヶ所×30着=150枚
- (4) ニッパーボード：5ヶ所×5本=25本
- (5) Jr教室掲出用ポップアップバナー：5部を配布
- (6) Jrテキスト：4500冊配布（ジュニア教室500冊、その他の事業4000冊）
- (7) 水辺の安全啓発クリアファイル：8,478枚を配布（ジュニア教室に500枚、その他の各種事業等に7,978枚）
- (8) ライフセービングサポーター修了証：9,491枚（BLS/2,585枚、WS/6,906枚）を配布。

● 得られた成果

- ジュニア教室で配布した器材は、水辺の楽しさを体験するだけでなく、浮力の確保による安全の担保。また視認性の高さによる安全性の確保に繋がり、子どもたちのだけでなく、指導者や保護者たちの満足度も得られた。

● 成功要因

- 昨年度評判の高かったジュニアラッシュガードに合わせ、ジュニア用パトロールキャップを復活させた。これにより視認性がさらに高まり、コロナ禍の影響で泳力に自信のない子どもたちを安全に見守ることができた。また、ラッシュガードは、海に入る再体験の気持ちを高めてくれる効果を感じている。
- 主催クラブとして、ビーチに容易に掲出できるポップアップバナーは、ジュニアライフセー

ビングプログラムの周知を高めるだけでなく、エリア確保にも効果を出しているようだった。

- 失敗要因
 - コロナウイルスの影響によりライフセービングサポーター講習会の開催数があまり伸びず、修了証やクリアファイルの配布は伸び悩んだ。

4. ライフセービングサポーター講習会（体験講習会）（事業内容2）

- 目標
 - BLS (GPR+AED) 講習 100ヶ所×50人=5000人
 - Water Safety 講習 100ヶ所×50人=5000人
- 実施結果
 - BLS (GPR+AED) 講習 42ヶ所 2,585人 により達成できなかった。
 - Water Safety 講習 68ヶ所 6,906人 により達成できた。
- 実施報告

	2021年		2020年		2019年	
	開催数	発行数	開催数	発行数	開催数	発行数
BLS	42	2,585	19	1,535	79	5,420
Water Safety	68	6,906	14	576	86	9,117
合計	110	9,491	33	2,111	165	14,537

- 得られた成果
 - コロナ禍の影響はあったものの、2020年度と比較すると大幅な増加が見られた。特にWater Safetyは約12倍の資格発行数となった。BLSは目標数には届かなかったものの、こちらも増加している。講習会を実施するに当たり、感染対策を講じながら計画、運営されていることが伺えた。2022年度もwithコロナが続くことが想定されるが、今後も特に学校関係の依頼や指導委託の傾向に対応すべく、指導態勢（指導員、資器材、イーラーニングの充実）をさらに整えていく必要性を感じた。
- 成功要因
 - Water Safetyの増加については、ICT教材であるe-Lifesavingを活用した講習形態が増えたことが要因である。実技を伴う体験が難しい状況の中においても、ICT教材によって水辺の安全教育を実施できることは、子どもたちにとっても指導者にとっても活用、実践のメリットが大きかったようだ。
- 失敗要因
 - BLSについては、増加傾向とはいえWater Safetyほど伸びなかった。ダミーなどの資器材を複数人で共有することへの受講者の心理的側面や、施設借用のハードルなど、感染対策上等の影響を受けたものと考えられる。



5. 指導者養成プログラムの実施 (事業内容3)

- 目標
「指導員養成講習会」の開催
- 実施結果

【BLS 指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2021年	5月1日、2日、3日、4日	9:00~17:00	多摩市民館 (神奈川県川崎市)	4
2021年	11月6日、7日、13日、14日	9:00~17:00	国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区)	11
2021年	12月18日、19日、25日、26日	9:00~17:00	三原リージョンプラザ (広島県三原市)	2
2022年	1月9日、10日、15日、16日	9:00~17:00	静岡市清水市民活動センター他 (静岡県静岡市)	8
2022年	1月13日、14日、15日、16日	9:00~17:00	いわき SLSC クラブハウス (福島県いわき市)	6
2022年	2月11日、12日、13日、14日	9:00~17:00	平得公民館(沖縄県石垣市)	7
			合計	38

【ウォーターセーフティ指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2021年	12月18日、19日	9:00~17:00	きらら博記念公園水泳プール (山口県山口市)	2
2022年	1月16日、23日	9:00~17:00	スウィン北本スイミングスクール (埼玉県北本市)	6
2022年	1月22日、23日	9:00~17:00	三原リージョンプラザ (広島県三原市)	2
2022年	2月5日、6日	9:00~17:00	ならはスカイアリーナ屋内プール (福島県双葉郡)	6
2022年	2月21日、22日	9:00~17:00	マリンスパ熱海 (静岡県熱海市)	7
2021年	3月5日、6日	9:00~17:00	海邦スポーツクラブ (沖縄県石垣市)	7
			合計	30

【サーフライフセービング指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2021年	11月5日、6日、7日	9:00~17:00	さがらサンビーチ (静岡県牧之原市)	7
			合計	7

【プールライフガーディング指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2022年	2月11日、12日、13日	9:00~17:00	柏崎アクアパーク (新潟県柏崎市)	5
			合計	5

【IRB指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2021年	6月5日、6日	9:00~17:00	須磨海水浴場 (兵庫県神戸市)	7
2022年	3月12日、13日	9:00~17:00	さがらサンビーチ (静岡県牧之原市)	4
			合計	11

【ジュニアライフセービング指導員養成講習会】

	日程	時間	会場	合格者
2022年	3月5日or12日、13日	9:00~17:00	中部住民センターせせらぎ (京都府京田辺市)	4
2022年	3月5日or12日、20日	9:00~17:00	国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区)	2
			合計	6

● 得られた成果

➢ 「指導員養成講習会」

◇ BLS指導員養成講習会	38名
◇ ウォーターセーフティ指導員養成講習会	30名
◇ サーフライフセービング指導員養成講習会	7名
◇ プールライフガーディング指導員養成講習会	5名
◇ IRB指導員養成講習会	11名
◇ ジュニアライフセービング指導員養成講習会	6名
◇ 合計	97名 (2020年度は97名)

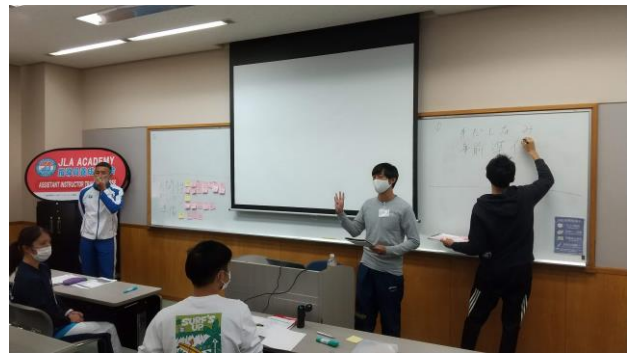
● 成功要因

- 都道府県協会との連携が強まり、過去開催してきた地域において開催ノウハウが構築されてきた。

● 失敗要因

- 一会場の受講者が極端に少ないところがあった。開催経験の少ない地域は、開催準備に時間を要し、告知が遅れることがあった。

【BLS指導員養成講習会】



【ウォーターセーフティ指導員養成講習会】



【サーフライフセービング指導員養成講習会】



【IRB指導員養成講習会】



6. e-Lifesaving の拡充と活用・周知 (事業内容 4)

- 契約時の事業内容

- (1) 時期：2021年4月～2022年3月
- (2) 場所：重点地域5か所の学校教育施設・教育機関施設
- (3) 対象：小・中・高等学校生（児童生徒）及び教員
- (4) 内容：e-Lifesavingのコンテンツ拡充、教育への導入・展開・促進及び検証

- 事業内容の実施（完了）状況

e-Lifesavingのコンテンツ拡充は滞りなく完了した。※資料D p2~8参照

しかし重点地域における教育活動はコロナ禍の影響を受け、実施することが困難であった。よって、実施できる地域や学校でのe-Lifesavingを用いた授業導入、及び検証を実施した。主に授業を受けた児童、生徒によるアンケート調査からは、水辺の安全における知識と技能を習得した、とする回答が大変多く、教材としての評価を確認できた。※別紙資料P10、14、15、16参照

- 成功したこととその要因

e-Lifesavingのコンテンツ拡充においては、児童、生徒が広く水辺の安全を主体的に考えていけるよう、学びへの興味関心を引き出す工夫（映像シナリオ、Q&Aシステム、ナレーション効果、キャラクターのアニメーション等）により、リアリティのある学びと成果を得られた。また水辺の安全を考えていく上で、河川財団や川に学ぶ体験活動協議会（RAC）との他団体連携を図り、水辺に共通するリスクや救助、事故予防への意識を共有することで、日本の水辺の安全をともに考えていける関係性を築くことができた付加価値は大きい。さらには教材制作に留まらず、それを児童生徒への教育実践として活用、検証することで、契約時にあげた事業内容を達成し、次なる課題を見出すことに繋がった。

- 失敗したこととその要因

コロナ禍の影響を受け、重点地域における海水浴場の開設や、監視救助体制が未だ通常化には至っていない。よってそこを拠点とする教育活動の未実施が昨年より続いている現状である。貴財団の助成制度を活用し、高度化事業と安全教育をクロスさせ、ライフセービングの最先端環境の充実を図ることを軸としてきたが、コロナ禍での活動格差が障壁となった。まだこうした状況を脱するには時間がかかるが、子ども達を海へいざない、楽しさを通じて安全を学ぶ体験活動を展開していくことは、JLAとしての使命であると認識を強めた1年であった。